

さくらだより [16号]

2012年1月17日発行

高1の息子の現代国語の宿題に天声人語を読んで感想を書けという課題がありました。iPS細胞を発見し、日本人で最もノーベル賞に近いといわれている山中伸弥京大教授の才能についての話です。彼は整形外科医を目指している途中、自分が無器用だったため基礎医学を始め成功した、神は人の中にいろいろな才能を配したので、その才能に気づけというような内容でした。神が人にどんな才能を配してくれているのか、人生の途中でわかる人もいれば、結局わからないで死んでいく人もいるでしょう。昔の人は自分の才能うんぬんより最初にした仕事を天職だと思い、終身雇用制度にのったまま停年退職し、他の道をしらなかつた人も多はずです。今は終身雇用もくずれ、自分の“木”を求めていろいろなチャンスを見つけ利用し、自分の一生の仕事や生き方を模索できる時代といえるでしょう。良い大学に入り、有名企業に入社し、終身雇用で将来安泰とうる親世代のような働き方はもう通用しない時代です。

ならば、自分の価値をみつめ武器をみがき、リスクもとり更に価値を高めること、そうしているうちに自分の才能に気づき、その才能を発揮できるというものです。若い皆さんはこの就職永河期の時代に生きていかなければいけないのですから、どこかに神様が与えてくれた才能があることを信じて自分の価値を高めるためのいろいろな選択肢を切り開いていくことです。

今年辰年です。のぼり竜のような勢いで仕事だけでなくいろいろなことに挑戦してみてはいかがですか。

乳幼児の虐待による死亡等痛ましい事件が日常化しています。大部分が母親の連れ子が交際相手の男性に虐待されるというものです。何故か父親の連れ子に関する事件はありません。離婚の際、子供は母親に引き取られるか、父親が逃げてしまい止むを得ず母親の親権になるケースが多いためでしょうか。日本では出産と育児をあまりにも母親に任せきりが横行しています。男性が世の中の仕事を独占し、男社会を作っているのがまだまだ日本の現状です。子供は社会の宝物、皆で守らないと。女性が子供を安心して生み育てられる社会にしていけないといけませんね。

